



令和2年4月7日

岐阜大学工学部

工学部長 村井利昭

保護者の皆様、ご子息様、ご令嬢様、岐阜大学工学部にご入学、誠におめでとうござい
ます。本来ですと4月7日の午前に入學式、その後キャンパスに移動されて、満開の桜を
愛でただけるはずでしたが、今年は書面でのメッセージ発信となりましたこと、お詫
び申し上げます。

さて春の樹木といえば桜ですが、樹木は桜だけではありません。岐阜大学柳戸キャン
パスにもたくさんの樹木が育っています。けやき、銀杏、ハナノキ、アメリカハナノキ、さ
らに講堂の前には楠がどっしりと構え、工学部校舎の西側にはメタセコイヤがそびえ立っ
ています。そのメタセコイヤは20年ほど前、建物の四階辺りまでの高さだったでしょう
か。長年の時を経て今では工学部校舎7階の高さまで育ってきました。メタセコイヤは秋
から冬にかけて、細長い葉っぱが茶色になり木からもかなり落ちますが、春になると一斉
に緑になります。ここで大切なのは、私たちが自然と向き合うとき、「自然には効率を求め
ない」ことです。桜が2月に咲いたら「効率がいいねえ」ではなくて「異常である」と言
います。実に多彩な樹木が生きるキャンパスで、それぞれの季節にそれぞれの樹木がささ
やかに自己主張しています。中には低木も多くて、5月にはサツキやツツジ、冬には椿が可
憐な花を咲かせます。いずれかの機会に本学にお越しになってこれらも鑑賞していただ
けますと幸いです。

これらの樹木と同様、皆様のお子様達も多様で多彩です。開花する時期は、人それぞれ
です。その彼ら彼女らは今日、生徒から学生になりました。学生、いわば学びに生きる人
です。学びとは、大学の教室で講義を聞くだけではなくて、普段の様々な体験を通して、
知識や知恵がさらに蓄積されて、それらが糧となった人としての振る舞いができる大人に

なることです。高校生の時よりも行動範囲も広く、また関わる人々の幅も広がります。その変化や大胆な行動に保護者の方々は不安になることもあるかもしれません。その時には、自分が18歳、19歳の頃、何を考えて何をしようとしていたのかを思い出してください。その当時私も含めて多くの方が共通して感じたことはおそらく、親御さんから必要以上に何かを言われた時の「うっとうしいなあ」という感じではなかったでしょうか。その点についてはお子様たちと共有できます。何かを注意しなくてはと思った時には一歩踏みとどまり、お子様達に寄り添いながらも、適度な距離感で見守っていただければ幸いです。

大学では4年間さらに大学院までですと6年から9年間を過ごします。生まれてから9歳までのような見かけの変化はほとんどありません。一方で実体験を通して、その後の人生を豊かに生き延びることができるように人として成長・成熟していきます。大学はそのような場であり、私たち教員やここで働くすべてのスタッフは、学生さんたちの成長・成熟を支援するフルメンバーです。お子様たちはここで多くの先生方と出会います。ここで言う先生は、私たち教員だけではなくて、いわば結果として人生の恩師になるような人、芸術作品や書物など、旅に出て見たこと、感じたことも、それらの一つです。10代後半から20代前半の豊かな感受性を持つ学生さんには、個別の実体験が相当なインパクトを与えます。ぜひ皆様のご子息、ご令嬢様も、二度とはない実体験をされますようお願いしています。

数年後のある日、保護者の方々が「うちの子供たくましくなったんじゃない」「奥深くて幅広い人になったかな」と実感できることを願っております。

なお、お子様のこと、これからの就学のこと、私に聞いてみたいことがありましたら、電子メールにて、保護者様のお名前とともに、なんなりとご連絡下さい。

村井電子メールアドレス：mtoshi@gifu-u.ac.jp